

KEK(高エネ機構)での「核兵器のない世界を」

## 署名の取り組み

2010年5月23日  
KEK九条の会

## KEK九条の会

- 職員組合とは独立した組織。
- SDI問題やLinac-94(加速器国際会議)での軍事研究(SDI等)の発表問題などをとりあげた「KEK平和の会」が母体。
- 大学研究所関係九条の会への世話人派遣を契機に、結成。
- 現在の登録者:38名、月例例会。
- Home page:  
<http://www009.upp.so-net.ne.jp/peace9/>

## 「核兵器のない世界を」署名 取り組みの動機

- 月例の例会で学習
  - NTP条約は190カ国が加盟する、核兵器に関する唯一の国際条約である。
  - 非核兵器国への拡散の防止、核兵器国の核兵器廃絶への努力、核物質の管理の3点を主な内容とするが、非核兵器国には厳しい査察や制限が課せられているのに、核兵器国には努力目標しか負わされていない。
  - その不平等性に加えて、前回2005年の再検討会議でプッシュ・ボルトンによって核兵器廃絶への途から遠ざかったことが、様々な軋轢を生み、前進がなければ枠組み自体が崩壊する危機にある。
  - 署名の力・運動の力：2000年再検討会議の前進は、7000万筆のヒロシマ・ナガサキアピールが切開いた。2005年でも署名とニューヨーク行動が、その後の展望を切開いてきた。
  - 日本政府は核兵器廃絶を言いつつ、核の傘(核抑止力)から抜けられていない。
    - 今こそ立ち上がろう。

## 取り組みの動機(続き)

- 核物理研究者の責任
  - 開発を行なった
    - ものすごいスピード。1932年：中性子の発見、1938年：ウラン核分裂の発見、1940年プルトニウムの発見、1945年原子爆弾三つ。
  - その反省に基づいて、その後の核廃絶運動の先頭に立った。
    - 湯川さんとバグウォッシュ会議、豊田さんや澤田さんの戦い、益川さんの呼びかけなど
  - 核の健全な平和利用に関連する分野である。
- 核の傘・安保条約の抑止力と憲法九条とは鋭く対立する。
  - 核密約問題
  - 基地問題

## 署名運動のまとめ

- 経過
  - 2009年12月から開始。家族、友人、知人へ広げる。KEK職員組合、学研労協、研究所九条の会に呼びかける。
- 集計
  - 署名262筆、カンパ15,200円（4月26日現在；茨城県：53,404筆、全国：630万筆）
- まとめ
  - 最近の（組合の）署名数と比べて多い。回覧ではなく、個別に訪問して署名を集めるという取り組みの成果と思われる。こういった草の根の取り組みにも意義はあった。
  - しかし、職員数700の半数という目標に達せず、全ての職員に当たったともいえない。もっとパワーが欲しい。

## 署名運動のまとめ（続き）

- 運動を通じて、県内の多くの平和団体と出会えた。
- NPT再検討会議・第1委員会（核軍縮）の報告草案に、  
「核兵器の完全廃絶の為にロードマップを検討する為に、国際交渉を開始する。」  
という提起が含まれる。
- 今回はこのような前進が得られそうであるが、戦いは続く。メンバーの中から「将来を見る想像力をもっと磨いていきたい」という感想が出ている。